

本発表の目標は、「悪口」という日常概念を経由しつつ、われわれの攻撃的な言語使用の特徴を明らかにすることである。本発表では、第一に、そもそも悪口とは何かについて、これまでに発表者が主張してきた「ヴァーチャルな劣位化」という見解を導入する(和泉 2023a, 2023b)。それによると、悪口は本質的に、人々の社会的立場を操作するものであり、ジェレミー・ウォルドロンが提示する、普遍化された最上位のランクとして理解される人間の尊厳を脅かすものとして理解される。

第二に、オンラインでの有害な言語使用について考察するために、進化的ミスマッチ(Lim and Tan 2024) の概念を導入する。たとえば、「甘いものを強く好む」という特徴は、食物資源が限られた環境において有利な特徴であるが、カロリー摂取が容易な環境とは、生活習慣病につながるといった意味でミスマッチを引き起こす。現代の SNS が提供する環境も、人類が持つ心理的および言語的メカニズムとの間でミスマッチを生じさせていると考えられる。数十名から 150 名程度の集団生活を送るといふ、社会性を持った動物としての人類の本性と、現在の情報空間とは、根本的に相性が悪い可能性がある。以上の点を、話し手や聞き手や文脈といった言語的観点から検討する。

Lim, A. J., & Tan, E. (2024). Social Media Ills and Evolutionary Mismatches: A Conceptual Framework. *Evolutionary Psychological Science*.

和泉悠. (2023a). 『悪口ってなんだろう』筑摩書房.

和泉悠. (2023b). 「ヴァーチャル劣位化としての悪口」『倫理学年報』第 72 集, 129-142.